厳しい酪農情勢、登録・審査にも影響

日ホ協 第75回総会開く

一般社団法人日本ホルスタイン登録協会は6月20日、東京都内で第75回通常総会を開催し、令和6年度事業報告と公益目的支出計画実施報告、7年度事業計画・収支予算について報告し、6年度収支決算と7年度会費徴収方法、役員報酬等について協議し、原案どおり可決承認された。

都府県血統登録申込 2年連続4万頭割る

令和6年度事業報告では、6月に通常総会を開催し、任期満了に伴う役員改選を行い、12月には臨時総会を開催して理事の補欠選任を行った。また、理事会を6回開催して、第16回全共及び第17回全共企画委員会関係、令和6年度JRA補助事業、7年度事業計画・同収支予算等について協議決定した。本年2月には東西2地区で社員会議を開催し、新しいNTPと2024年度乳用牛改良推進実施計画の講演等を行った。

酪農不況により酪農家の離農が進む中で、6年度の会員申込数は8546名で、都府県では前年度より6・5%減、北海道でも4%減少した。一方、血統登録申込は20万8726頭で前年度より5910頭増加し、北海道は前年度より3・4%増加、都府県も0・6%増加したが、都府県は2年連続で年間4万頭には届かなかった。

ＡＰ東京八重洲にて開催

体型審査（牛群、奨励、個体審査等含む）は全国で1万8827頭を数え、前年度より928頭増加したが、都府県は酪農家の離農やランピースキン病感染の心配から審査受検を控える酪農家も少なくなく、前年度に比べて7・1%減少した。一方、遺伝子型調査の合計は1万5750件で、前年度より3265件増加した。特に前年1月から開始したβカゼインの判定が2400件ほど増加したことから、A2ミルクへの関心が高まっているものと推察される。

遺伝病等ハプロ情報の還元拡充を図る

情報提供では、スマートフォンやパソコンで検索できる近交回避情報や検定成績証明農家向けの登録情報活用システム（RIUS：ライアス）、さらにはSNP検査申込者に対して、飼養している雌牛の直近の遺伝評価成績と近交状況、未経産牛の牛群内順位をグラフ等で見やすく表示したゲノミック情報利活用システム（GenIUS：ジーニアス）等のWeb上の情報還元の拡充に努めた。また、昨年4月からブラキスパイナと牛コレステロール代謝異常症（CD）、8月からβカゼインのSNP情報をWeb上で提供開始した。

調査研究では、前年度に引き続いてJRA畜産振興事業「乳用牛ゲノミック選抜の推進強化研究事業」を実施し、7道県の農業共済組合から疾病牛の診療データの提供を受けて、疾病7形質の遺伝分析と耐病性（疾病抵抗性）成分の試作、ハプロタイプによる遺伝性疾患等の保因状況の識別、疾病形質を考慮したNTPや長命連産効果の見直し等の検討を行った。NTP等の見直しの成果は来年2月に公表予定の新しいNTPの公表につなげた。

そのほか、後代検定娘牛の体型調査やSNPデータによる血縁矛盾調査、遺伝能力評価用の体型及び泌乳記録の血縁構築作業、牛群検定全国協議会事業への協力、日本ジャージー登録協会事業の受託、全国ホルスタイン改良協議会事務を受託して実施した。

研修会関係では、都府県5地区で登録委員研修会と登録事務担当者会議を開催したほか、県単の共進会審査や登録・審査講習会に講師を派遣し、登録推進や牛の見方の実習を行った。

登録事業は赤字決算 7年度さらに厳しく

上表の令和6年度正味財産増減計算書内訳表の合計は何とか1266万円の赤字決算に留まった。

また、令和7年度収支予算書内訳表では、実施事業会計の当期一般正味財産増減額は9552万円の赤字となり、これらの赤字を、7年度は全共特別会計を含めたその他会計で補填しても、なお5198万円の赤字が見込まれる等引き続き厳しい財務状況が予想される。

自動登録普及拡大と全共開催に向け尽力

令和7年度も引き続き、安価で申込書不要の「自動登録」の普及拡大と登録の精度向上に努めるほか、牛群審査や検定成績証明、SNP検査の普及拡大を図っていく。

7年度の血統登録計画頭数は全国で19万7035頭、移動証明2850件、審査成績証明1万8940頭、検定成績証明7万690件、SNP検査を含む遺伝子型調査は1万4275件を見込んでいる。

酪農界の大イベントである全日本ホルスタイン共進会の第16回北海道大会がいよいよ本年10月25・26日の2日間、北海道安平町の北海道ホルスタイン共進会場で開催される。開催地の北海道並びに参加の各都道府県、中央酪農・畜産関係団体等の協力の下、成功裏に運営して実効を上げる。

調査研究では、前年度事業を継続して、疾病診療データの収集と遺伝分析、遺伝性疾患等のハプロタイプ情報等の提供を行う。また、本年8月には乳牛改良関係の5団体で構成する乳用牛改良推進協議会で開発した、疾病抵抗性指数の公表、来年2月には疾病抵抗性を考慮した新たなNTPの公表を予定している。

そのほか、地区別登録委員研修会、登録事務担当者会議等の開催、機関誌「全酪新報日ホ協特集号」の発行、各種表彰、ジャージー種牛の登録、ホルスタイン会館の適正な管理に努めるとした。

日本ホル協特集

令和6年度正味財産増減計算書内訳表（令6.4.1～令7.3.31）

（単位：円）

科　目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合　計
Ⅰ 一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益		136,549	5,793	142,342
② 受取会費			26,793,000	26,793,000
③ 事業収益	1,001,839,646	166,664,262		1,168,503,908
④ 受取補助金等	154,258,417			154,258,417
⑤ 雑収益		503,499	4,206,650	4,710,149
経常収益計	1,156,098,063	167,304,310	31,005,443	1,354,407,816
(2) 経常費用				
① 事業費	1,244,234,684	91,544,600		1,335,779,284
② 管理費			31,130,678	31,130,678
経常費用計	1,244,234,684	91,544,600	31,130,678	1,366,909,962
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 88,136,621	75,759,710	△ 125,235	△ 12,502,146
特定資産評価損益等		△ 91,000		△ 91,000
当期経常増減額	△ 88,136,621	75,668,710	△ 125,235	△ 12,593,146
2．経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 88,136,621	75,668,710	△ 125,235	△ 12,593,146
法人税・住民税及び事業税		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	△ 88,136,621	75,598,710	△ 125,235	△ 12,663,146
一般正味財産期首残高				897,516,115
一般正味財産期末残高				884,852,969
Ⅱ 指定正味財産期末残高				0
Ⅲ 正味財産期末残高				884,852,969

令和7年度収支予算書内訳表（令7.4.1～令8.3.31）

科　目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合　計
Ⅰ 一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益		100,000	10,000	110,000
② 受取会費			27,111,000	27,111,000
③ 事業収益	950,032,000	188,850,000		1,138,882,000
④ 受取補助金等	160,638,000	62,460,000		223,098,000
⑤ 雑収益		5,700,000	4,069,000	9,769,000
経常収益計	1,110,670,000	257,110,000	31,190,000	1,398,970,000
(2) 経常費用				
① 事業費	1,206,194,430	216,895,830		1,423,090,260
② 管理費			27,789,740	27,789,740
経常費用計	1,206,194,430	216,895,830	27,789,740	1,450,880,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 95,524,430	40,214,170	3,400,260	△ 51,910,000
特定資産評価損益等				0
当期経常増減額	△ 95,524,430	40,214,170	3,400,260	△ 51,910,000
2．経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 95,524,430	40,214,170	3,400,260	△ 51,910,000
法人税・住民税及び事業税		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	△ 95,524,430	40,144,170	3,400,260	△ 51,980,000
一般正味財産期首残高				884,852,969
一般正味財産期末残高				832,872,969
Ⅱ 指定正味財産期末残高				0
Ⅲ 正味財産期末残高				832,872,969

健康で長命連産し、より高い生涯能力を発揮できる優良な牛群づくりを目指す

（一社）日本ホルスタイン登録協会　会長　前田　勉

日本ホルスタイン登録協会会員と酪農関係者の皆様には、日頃からホルスタイン種登録事業の推進に対して多大のご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

当協会では、6月20日に全国から多くの社員並びに農林水産省をはじめ中央関係団体からご来賓を迎えて、第75回通常総会を開催しました。

3年前のロシアによるウクライナ侵攻を発端に、世界の経済流通は悪化しており、今日に至るまで食料品や加工品・原材料の不足と、物価の高騰が続いております。酪農業界においても、配合飼料や燃油をはじめ生産資材の価格高騰と、コロナ禍以降の牛乳消費停滞による生乳の需給緩和政策や子牛価格の低迷等で、全国の酪農家は先の見えない暗くて長いトンネルの中で、毎日不安を抱えながら、生乳生産を続けている状況です。

この厳しい酪農環境の中で、私たち日本ホルスタイン登録協会は、乳牛改良を通じて会員酪農家の経営の安定に必要な「健康で長命連産し、より高い生涯生産能力を発揮できるような優良な牛群づくり」を行うため、血統登録や牛群審査、牛群検定の継続的な実施と、近年のゲノミック評価に必要なSNP検査の普及拡大等を進め、これらから得られる有効な改良情報を会員に還元提供することが責務であると考えています。

本年度も引き続き、安価で申込書不要の「自動登録」の普及定着と併せて、牛群検定農家向けに「登録情報活用システム（RIUS）」の提供、SNP検査農家に対する「ゲノミック情報利活用システム（GenIUS）」や雌牛ゲノミック評価速報値の提供等、情報還元の一層の充実に努めていきます。

また、日本中央競馬会の畜産振興事業「乳用牛ゲノミック選抜の推進強化研究事業」では、7道県の農業共済組合から疾病牛の診療データの提供を受けて、主要な疾病データの遺伝分析と耐病性（疾病抵抗性）指数の開発、さらには遺伝性疾患等に関するハプロタイプ情報提供を開始しています。さらには、乳牛改良関係の5団体で構成する「乳用牛改良推進協議会」に参画して、本年8月には疾病抵抗性指数の公表、来年2月には疾病抵抗性指数を組み込んだ新しい総合指数の公表を予定しています。

最後に、本年10月25・26日には北海道安平町の北海道ホルスタイン共進会場において、10年ぶりとなる「第16回全日本ホルスタイン共進会」を開催し、ホルスタイン及びジャージー種牛の改良の成果と併せて、今後の乳牛改良の方向性を提示していきます。

全共ロゴマーク

Webサイトから入手可能

日本ホル協は7月16日に第16回全日本ホルスタイン共進会の全共ロゴ使用に関する規程を制定した。

第16回全共ロゴは第16回全共に対する理解と協力を高めるために効果があると認めたときに使用を承認する。ロゴの使用は商品や商業広告に使用する等の営利目的の場合は日本ホル協の承認を得る必要がある。ただし、国及び地方公共団体等が使用する場合、報道関係が報道のために使用する場合、企業のPRや商品等を無償配布する場合、企業や団体等が発行する社内報・機関誌・会報等で営利を目的としない無償配布の印刷物で第16回全共関連記事の中で使用する場合は使用承認の手続きを必要としない。

ロゴの使用承認申請書やロゴ本体、本規程の詳細については日本ホル協Webサイトに掲載されているので参考にされたい。

ロゴマークの一例

乳牛改良の専門農協
北海道ホルスタイン農協
HOKKAIDO

「第16回全日本ホルスタイン共進会」北海道大会 開催

【日　時】令和7年10月25日（土）8：00～17：15　26日（日）8：00～13：00
【会　場】北海道ホルスタイン共進会場（勇払郡安平町早来新栄）
【2025 ゴールデン ナショナル セール併催　10月25日（土）（17：00～）】

詳しくは、当組合ホームページをご覧ください。

登録情報活用システム
RIUS（ライアス）
（一社）日本ホルスタイン登録協会が証明した検定・審査成績、共進会賞歴をパソコンやスマホで簡単検索！
在籍牛の血統登録状況も！
まずはアクセス！紹介動画も公開中！→

近交情報システム Web
近交係数の上昇を抑制できる種雄牛をリストアップします！
雌牛ごと！
牛群一括で！
スマホでも！
リストアップ可能です！

北海道ホルスタイン農業協同組合
〒001-0015　札幌市北区北15条西5丁目1-5
【代　　表】TEL 011-726-3111　FAX 726-3135
【登録部証明課】TEL 011-726-3112　FAX 726-3124
【登録部電算課・改良課】TEL 011-700-2836　FAX 726-3124
【審 査 部】TEL 011-726-3114　FAX 700-2837
【経 済 部】TEL 011-726-3114　FAX 700-2837
ホームページアドレス：https://www.holstein.or.jp/

ヤングサイアNo.5の産乳成分と
No.10の乳代効果で
収益性の高い牛群へ改良を加速！
ヤングサイア
JP5H61521
バツハ
クラシック ×
アルタローソン × フラズルド
FCMax
Sort90
GNTP +3,542 −3位−
産乳成分：+504 5位　Pro：+67kg 7位
大きさ指数：-0.86 9位
乳代効果：+183,289円 10位

No.1の産乳成分と
No.2の乳代効果がもたらす
抜群の収益性は唯一無二！
検定済種雄牛
JP5H60039
フクキチ
アルタモントーヤ ×
ジエダイ × キングボーイ
FCMax
Sort90
ROBOT
NTP +3,289 −4位−
産乳成分：+452 1位　Pro：+64kg 1位
乳代効果：+183,847円 2位　SNF：+151kg 2位
長命連産効果：+113,961円 2位　Fat：+78kg 4位
泌乳持続性：+2.44 4位　Milk：+1,444kg 5位

一般社団法人 家畜改良事業団
〒135-0041 東京都江東区冬木11-17 イシマビル ☎03-5621-8911
■十勝種雄牛センター ☎0155-54-2889
北海道事業所 ☎011-242-9641
■盛岡種雄牛センター ☎019-683-2450
■前橋種雄牛センター ☎027-269-3311
東海近畿事業所 ☎0564-57-2055
■岡山種雄牛センター ☎0868-57-2475
■熊本種雄牛センター ☎096-279-2647
お問合せは、最寄りの種雄牛センターへ
※当団の性選別精液（Sort90）を用いた体外での胚生産等は許可していません。体内受精卵の生産は可能ですが、販売目的の場合は各種雄牛センターにご相談ください。